



【2016-12-07】

遊道楽歩（雑感）

書を友に、酒を楽しみ、
人生を味わう

今週の雑感

『尊敬する「樋口廣太郎氏」
からビジネスと人生を学ぶ』

長野修二

尊敬する「樋口廣太郎氏」からビジネスと人生を学ぶ

私が尊敬しているビジネスマンは樋口廣太郎（故人）氏です。

理由は、個人を中心に組織を考えており、個人の生き方の追求が企業活動だと割り切っているところでしょうか。

本書の中にある見出し「命、運命まで会社と契約していない」といった内容は、まさに若い人たちや学生のみなさんに読んでもらいたいところです。

もっとも、樋口氏も自ら「一人の人間」として悩みながら解を出し、トップビジネスマンとして活躍されてきたところに学ぶべき意味がありました。

個人と組織のかかわりは、法制度などの改革があっても、なお企業活動があり続ける限り課題となってくるものでしょう。

複雑化した社会構造の中では、法律が有効に機能するかどうかともむずかしい時代であるだけに、樋口氏の言葉には重みがあります。

『[知にして愚](#)』の前書きには、『ビジネスマンは「夢」を持つことが必要である。』



夢を持つことは、自分の心を奮い立たせるだけでなく、生きる喜びと、働く楽しみを生み出すことにつながる。

逆に言えば、夢のないビジネスマン人生を送ることほど、悲しいことはないであろう。そして、人は誰でも「自助努力の心」「上昇していこうとする心」をもっているはずだ。そのためには”心のダイナモ（発電機）”を、いつも回転させ続けなければならない。言葉をかえれば、常に”自己燃焼”できるかどうかである。時代に即して言えば、自らが時代の一翼を担い、前例のないものに挑戦していく意欲、行動力があるかどうか、人生の大きな分かれ目になるだろう。

漲る体力と気力、自分の心を奮い立たせるダイナモを回し、燃焼し続けるとき、そこには大きなエネルギーが生まれてくる。

そして、そのエネルギーが相手に伝わり、自分のまわりに活力が生まれ、上昇気流の強い運勢を招くことになるのではないかと思う。

このことは、組織に忠誠を尽くす「会社人間」になれ、ということではけっしてない。

私が言いたいのは、豊かな教養や幅広い知識をもった素晴らしい「社会人間」になってもらいたいということである。

クリエイティブでアグレッシブな”人”であってほしいということである。

企業の本当の力というものは、こういった夢や、強力なダイナモを持った人たちが、組織内にどれだけいるかで決まってくる、と言っても過言でなない。

組織は個人の集合体であるが、組織は放っておいても、そのものを大きくしようとする力が自然に働き、社員一人ひとりのことを細かくは考える余裕がない、というのが現実だ。

だから逆に、社員は組織の中で、自分のやりたいことをギリギリまで追求すればいいのだ。そうすれば、個人にも組織にも活力が生まれ、皆が幸福になれるのである。

<中略>

これまでのビジネスマン人生を通じて、私が大切だと感じたことは、「知に溺れるな」「礼節を以って緩慢にやれ」である。そして、自分をありのままの姿、素直な気持ちをさらけ出せる「愚」であれということである。』

はたから見ると組織人であったように思える樋口氏ですが、本書の最初の章は、「自分に忠実にいきたい」です。

近年、ビジネスに関する知識を学ぶことに熱心なことは良いことではありますが、本当に実践的な学びに昇華しているのかどうかは今一つわかりにくいものです。

とくに企業が主体となった研修制度や評価制度をみていると、ペーパーベースの知識に依存しており、現場感覚や自らの身体感覚になっていない幹部も多くいるように思えます。

その点では、本書は企業における個人の生き方からマネジメント、あるいは組織とのかかわり方、そして自らの人生を長い時間軸で学ぶための教科書となるでしょう。私は、この本を自分で箇条書きに書き出して自らの課題にぶつかったとき、何度も読み返しながら行動してきました。

参考までに、私が[箇条書きして学んでいる「知にして愚」](#)を公開しておきます。

樋口氏の本に限らず、自分でこれだと思った本は、必要に応じて自分の中にうまく取り入れることが大切だと考えています。

その繰り返しから徐々に「ぶれない自分」を構築していくことができるようになるのかもわかりません。

